

博物館だより

第66号

2006.7.15

Nagano City Museum

第51回特別展 骨の動物園

世界最大のコウガゾウが、
長野にやってくる!!



写真提供：滋賀県立琵琶湖博物館

当館では、7月23日(日)から9月10日(日)まで、特別展「骨の動物園」を開催します。みなさんは、長野市西部の山から動物の骨の化石が見つまっているのをご存知ですか。戸隠や鬼無里では、約300万年前のシンシュウゾウの化石が発見されており、県の天然記念物にもなっています。他にもクジラやダイカイギュウなども見つかっています。今回、長野から見つかったゾウの仲間、世界最大といわれる「コウガゾウ」の全身骨格(高さ約4m、長さ8m)が、特別展示室にやってきます。大昔、長野にこんな大きな動物がいた!と考えるだけで、ワクワクしますよ。それにあわせ、世界中の動物たちの骨格も展示します。「骨の動物園」では、ジャイアントパンダやライオン、キリンやコアラ、クジラやシャチ、さらにはコウモリやナマケモノなど150種をこえる動物たちを紹介します。いろんな骨をくらべ、動物たちの暮らしぶりや進化の道筋をたどってみましょう。(田辺智隆)

いろんな骨が大集合！骨がらわかる、動物たちのヒ・ミ・ツ

骨の化石が見つかって、最初はその正体がよくわからない場合があります。しかし、よそで発掘された化石や今の動物たちの骨と比べたりすることで、種類や大きさ、年齢や性別までもが明らかになってくるのです。こうした研究のため、戸隠地質化石館では、動物たちの骨の標本を集めています。これまで15年以上にわたって、地域やサポーターの方々の理解と協力をうけながら、海辺や野山で死んだ動物たちを拾い集め、多くの骨を集めてきました。

今回、戸隠資料を中心に、各地の博物館や動物園にもご協力をいただき、世界最大のコウガゾウの骨格をはじめ、サイやカバ、キリン、パンダ、世界中のいろいろな動物たちの骨を9コーナーにわけて展示します。動物たちの骨から、生命の秘密や進化の道筋をたどっていただき、骨のおもしろさを発見していただければと思います。

会場では、骨のパズルやクイズなどの企画や展示解説などを行うほか、下記のような講演会や展示説明会を計画しています。ふるってご参加ください。
(田辺智隆)



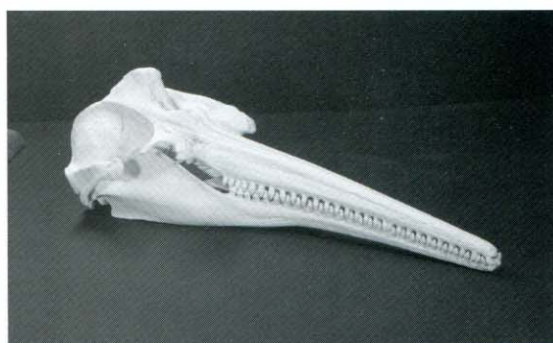
▲これでもサルの仲間 ワオキツネザル



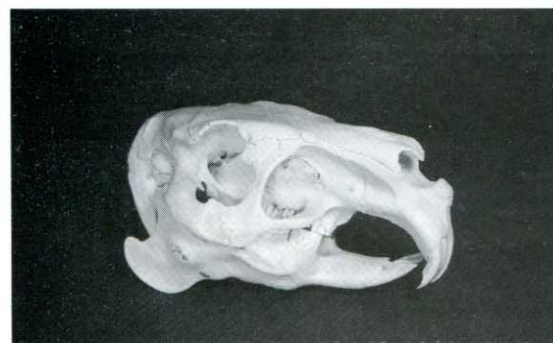
▲こんな動物もいました ヨツツノヒツジ



▲歯が一本もない長い頭 オオアリクイ



▲ワニかな？ アマゾンカワイルカ



▲世界最大のネズミの仲間 カピバラ



▲メスの気をひくための長い牙 イボイノシシ

- ・講演会 「コウガゾウとはどんなゾウだったのかー戸隠で発見された化石ゾウの来た道をさぐるー」
8月6日(日) 午後1時30分より 講師 高橋啓一氏(滋賀県立琵琶湖博物館研究部長)
- ・移動動物園 8月1日(火) 午前10時～午後3時 茶臼山動物園からいろいろな動物がやってくるよ!!
- ・展示説明会 7月29日(土)・8月6日(日)・13日(日)・19日(土)・20日(日)・26日(土)・27日(日)
9月10日(日) いずれも午後2時より

100万人の キャンドルナイト 南の島の星とあかり

～沖縄三線の
音色とともに～

2003年から、「大地を守る会」が呼びかけて始まった100万人のキャンドルナイトは、「夏至の夜、電気を消してスローな夜をすごそう」というキャンペーンです。これは、省エネ効果が高いだけでなく光害防止にも目を向け、最近^{ひかりがい}は忘れかけている「スローな生活を見直す」ことに主眼を置いています。当館とながの環境パートナーシップ会議は、その趣旨に賛同し、昨年度からイベントを開催しています。今年度は「南の島の星とあかり」をテーマにプラネタリウムにおいて実施しました。

★イベントの概要

と き：2006年6月17日(土)

午後6時30分～8時30分

会 場：長野市立博物館プラネタリウム

主 催：ながの環境パートナーシップ会議
長野市立博物館

共 催：長野市環境管理課

長野市立博物館友の会

演 奏：あやばに

【沖縄八重山の音楽】

今回は沖縄石垣島の星と音楽をベースにして環境とあかりについて参加者に関心を持ってもらうためのイベントを行いました。

★第一部……あやばにのコンサート

★第二部……足元が明るく安全で、同時に星も見えるそんな照明器具の紹介と実演。光害とは何かを解説。また、プラネタリウムで南国石垣島で見られる星空を紹介。この時期南十字星も見られる。

★第三部……あやばにコンサート

あやばにの皆さんから、自分で経験した石垣島と石垣島の環境についての話があった。

※あやばには上田市を中心に活動している八重山民謡を演奏するグループです。今回7人で演奏してもらいましたが、リーダーの高寺知香さんは最優秀新人賞の受賞や師範の免許を取得した本土では最初の人です。またその他の6人のメンバーも新人賞以上を獲得した実力者たちです。

【参加者の感想から】

- ・三線の音色と波の音がマッチしていてとてもよかった。プラネタリウムがもっと身近になるようにいろいろな企画をやって欲しい。
- ・若い皆さんが楽しく会を進めてくださり、また石垣の生活のトークもとても良かったです。また聞きたい。
- ・恒例の行事にしてください。

(大蔵 満)



▲光害についてのレクチャーの様子



▲あやばに登場



▲最後は全員参加。楽しく踊って 踊って！

博物館では今年度、子どもたちに自然についてのさまざまな体験をしてもらう連続行事「こども自然たんけん隊」を実施しています。この行事は春夏編と秋冬編に分かれていて、それぞれ5回にわたって行う計画です。

◆第1回目「水源林を歩く」

春夏編の第1回目が6月10日(土)に長野市鬼無里の奥裾花自然園で行われました。この日は「水源林を歩く」というテーマで、自然園の樹木や生き物たちを観察しました。

ブナの林ではブナやミズナラなどの巨木の大きさを測ったり、切り株の年輪を数えたりして、長い年月を経て木々が太木へと生育したことを確かめました。

園内の池では、ちょうど産卵期を迎えていたクロサンショウウオとモリアオガエルの卵塊が見られ、小さな沢の石の下でハコネサンショウウオの幼生らしきものをみつけることができました。



▲この木は樹齢何歳かな？

◆第2回目「望遠鏡の使い方を学ぶ」

第2回目は6月24日(土)に「望遠鏡の使い方を学ぶ」というテーマで、博物館にて行いました。望遠鏡を見せてもらう機会はあっても自分で操作して星を見る機会はほとんどないのが実状です。

第3回目は戸隠にて実際に望遠鏡を操作して星を見ますので、その準備として望遠鏡の仕組み、組立て、操作方法を学び、練習しました。一つ一つとても重い望遠鏡の部品を落とさないように注意深く協力し合って組立て、ファインダーを合わせた後、遠くの山の木などの目標を望遠鏡の視野に入

れることができるようになりました。地上の風景を見て、あらためて望遠鏡はさかさまに見えることも実感したようです。

午後は星を見るために必要な星座早見盤の製作を行いました。星にも色があること、今見えている星や星座はなんだろうということを星座早見盤を使って調べ、次に自分で望遠鏡を操作して実際に見てみたい星たちを決めていきました。

最後に望遠鏡の「視力検査」を行いました。人間の目は視力1.5あれば素晴らしいのですが、視力50もある口径10cmの望遠鏡の威力には一堂驚きの声が上がりました。

◆参加者の募集

春夏編の募集はすでに締め切りましたが、定員に空きがあるので、参加ご希望の方はご連絡をいただければ8月12日(土)の第4回目から参加できます。また、秋冬編の募集は9月に行う予定です。(大蔵 満・畠山幸司)



▲望遠鏡の組み立て



▲望遠鏡の視力検査「視力はいくつ…？」